

シ ラ バ ス

(6年次用)

平成31年度 6年次授業日程表

| 週 | 日程 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | | | | | | |
|----|---------------|---------------------------------------|--------------|----------|---|-----|-----|--|--|--|--|-----|
| | 3月25日～3月29日 | 春休 | | | | | | | | | | |
| 1 | 4月1日～4月5日 | 個別計画実習 第Ⅰ期 平成31年4月1日(月)～5月31(金) | | | | | 1-1 | | | | | |
| 2 | 4月8日～4月12日 | | | | | | 1-2 | | | | | |
| 3 | 4月15日～4月19日 | | | | | | 1-3 | | | | | |
| 4 | 4月22日～4月26日 | | | | | | 1-4 | | | | | |
| 5 | 4月29日～5月3日 | 祝日 | | | | | | | | | | |
| 6 | 5月6日～5月10日 | 祝日 | | | | | | | | | | |
| 7 | 5月13日～5月17日 | 実習報告週 | | | | | 1-5 | | | | | |
| 8 | 5月20日～5月24日 | 個別計画実習 第Ⅰ期 | | | | | 1-6 | | | | | |
| 9 | 5月27日～5月31日 | | | | | | 1-7 | | | | | |
| 10 | 6月3日～6月7日 | 全人医学/ユニオンレクチャー ※期間中に健康診断及びマッチング説明会を予定 | | | | | | | | | | |
| 11 | 6月10日～6月14日 | | | | | | | | | | | |
| 12 | 6月17日～6月21日 | 個別計画実習 第Ⅱ期 平成31年6月17日(月)～7月26日(金) | | | | | 2-1 | | | | | |
| 13 | 6月24日～6月28日 | | | | | | 2-2 | | | | | |
| 14 | 7月1日～7月5日 | | | | | | 2-3 | | | | | |
| 15 | 7月8日～7月12日 | | | | | | 2-4 | | | | | |
| 16 | 7月15日～7月19日 | 祝日 | | | | | 2-5 | | | | | |
| 17 | 7月22日～7月26日 | | | | | | 2-6 | | | | | |
| 18 | 7月29日～8月2日 | 実習報告週(チューターへの実習状況報告等) | | | | | 2-7 | | | | | |
| 19 | 8月5日～8月9日 | 夏休 | | | | | | | | | | |
| 20 | 8月12日～8月16日 | 夏休 | | | | | | | | | | |
| 21 | 8月19日～8月23日 | 夏休 | | | | | | | | | | |
| 22 | 8月26日～8月30日 | 夏休 | | | | | | | | | | |
| 23 | 9月2日～9月6日 | 個別計画実習 第Ⅲ期 平成31年9月2日(月)～10月11日(金) | | | | | 3-1 | | | | | |
| 24 | 9月9日～9月13日 | | | | | | 3-2 | | | | | |
| 25 | 9月16日～9月20日 | | | | | | 祝日 | | | | | 3-3 |
| 26 | 9月23日～9月27日 | | | | | | 祝日 | | | | | 3-4 |
| 27 | 9月30日～10月4日 | | | | | | 3-5 | | | | | |
| 28 | 10月7日～10月11日 | | | | | | 3-6 | | | | | |
| 29 | 10月14日～10月18日 | 祝日 | 発表準備期間/実習報告週 | 発表会(2日間) | | 3-7 | | | | | | |
| 30 | 10月21日～10月25日 | 祝日 | | | | | | | | | | |
| 31 | 10月28日～11月1日 | ※11月3日(日)卒業時OSCE実施予定 | | | | | | | | | | |
| 32 | 11月4日～11月8日 | 祝日 | | | | | | | | | | |
| 33 | 11月11日～11月15日 | 予定:卒試(国試形式) ※期間中2日間 | | | | | | | | | | |
| 34 | 11月18日～11月22日 | | | | | | | | | | | |
| 35 | 11月25日～11月29日 | | | | | | | | | | | |
| 36 | 12月2日～12月6日 | | | | | | | | | | | |
| 37 | 12月9日～12月13日 | 予定:卒試(再試) ※期間中1日間 | | | | | | | | | | |
| 38 | 12月16日～12月20日 | | | | | | | | | | | |
| 39 | 12月23日～12月27日 | | | | | | | | | | | |
| 40 | 12月30日～1月3日 | | | | | | | | | | | |
| 41 | 1月6日～1月10日 | | | | | | | | | | | |
| 42 | 1月13日～1月17日 | 祝日 | | | | | | | | | | |
| 43 | 1月20日～1月24日 | | | | | | | | | | | |
| 44 | 1月27日～1月31日 | | | | | | | | | | | |
| 45 | 2月3日～2月7日 | | | | | | | | | | | |
| 46 | 2月10日～2月14日 | 祝日 | | | | | | | | | | |
| 47 | 2月17日～2月21日 | | | | | | | | | | | |
| 48 | 2月24日～2月28日 | 祝日 | | | | | | | | | | |
| 49 | 3月2日～3月6日 | | | | | | | | | | | |
| 50 | 3月9日～3月13日 | | | | | | | | | | | |
| 51 | 3月16日～3月20日 | | | | | | 祝日 | | | | | |
| 52 | 3月23日～3月27日 | | | | | | | | | | | |

科目名：全人医学

| 区 分 | 内 容 | |
|----------------------|---|--|
| 学習指導教員 (コーディネーター) | 役 職 氏 名 | 地域社会医学・健康科学講座（疫学分野） 准教授 篠原 正和 |
| | 連絡方法 | TEL: 078-382-5541 E-mail: mashino@med.kobe-u.ac.jp |
| | 備 考 | |
| 担当教員 | 役 職 氏 名 | 内科系講座（医療情報学分野）／附属病院医療情報部 准教授 高岡 裕 |
| | 役 職 氏 名 | 医学部附属病院 副病院長・看護部長 藤原 由佳 |
| 担当教員 (学部外) | 役 職 氏 名 | 神戸大学理事・副学長、神戸大学大学院法学研究科 教授 井上 典之 |
| | 役 職 氏 名 | 神戸大学名誉教授 丸山 英二 |
| 担当教員 (学外) | 役 職 氏 名 | 国家公務員共済組合連合会六甲病院 緩和ケア内科 部長 安保 博文 |
| | 役 職 氏 名 | 西本クリニック 院長 西本 隆 |
| | 役 職 氏 名 | 兵庫県スモンの会 会長 春本 幸子 |
| | 役 職 氏 名 | 兵庫県健康福祉部 部長 山本 光昭 |
| 学習到達目標 | 医療の今日的問題とそのアプローチ法を理解する。 | |
| Objectives (別添) | To understand the current issue in achieving the improvement of healthy life in the communities in Japan. | |
| 講義の概要・形式 | チーム医療，薬害被害者の悲嘆，法律家の立場からみた医師活動，行政の立場からみた医療・保健，漢方医学，緩和医療といった医療の今日的問題について講義します。 | |
| 講義内容 | <p>(1) 鍼灸（担当教員：高岡） 鍼灸治療とは、我が国の伝統医学である東洋医学の治療法であり、生薬を用いた漢方治療と一対をなしている。東洋医学では、個人個人の体質に合わせた治療や「未病を治す」を特徴とする。最近では、西洋医学での個別化医療の進展に伴い、西洋と東洋の医学の方向性は融合しつつある。これらを踏まえて本講義では、(1)相補・代替医療について概説し、(2)鍼灸治療の起源と各国での医療としての取り扱い、鍼灸治療で用いる治療器具や医学理論、(3)明治維新の医療制度改革と鍼灸（漢方）および現代での扱い等を解説する。その上で、分子細胞生物学で鍼灸を解析した結果、すなわち(4)骨格筋に及ぼす鍼通電治療の効果、特に遺伝子発現への影響と生体への効果や新たな治療法としての可能性を紹介し、(5)鍼を自ら刺す機会を提供する。そして、時間が許せば鍼治療について直に体験する機会を設け、多面的に鍼灸について理解出来るようにする。</p> | |

| | |
|------|---|
| 講義内容 | <p>(2) 薬害 (担当教員: 春本)</p> <p>医薬品には効果と同時に、必ず副作用があります。副作用がそれだけに止まらず、看過できない被害を人体にもたらした場合が薬害です。日本の代表的な薬害であるスモン (キノホルム薬害) を例に、日本の薬害の歴史、被害実態、日本で多発した原因などについて概説し、日常の診療の中での薬害防止について考えたいと思います。</p> |
| | <p>(3) 終末期医療と緩和ケア (担当教員: 安保)</p> <p>進行癌を患った人は、身体・心理・家族・社会・環境・宗教・生と死への考え方など、各方面でそれ以前にはなかった問題を生じ、生活が損なわれていく。緩和ケア病棟では、患者と家族の生活状況を全体的にとらえたうえで、実現可能な患者・家族の希望を引き出し、その希望の実現のために障害となっている問題を一つ一つ解決していくか希望や問題を別の形に置き換えるとともに、患者や家族の人間関係を再構築することによって、癌によって損なわれた生活全体を改善することを目指している。今回の講義では、緩和ケアを行う上で必要な考え方を概説した上で、症状緩和の方法・難しい場面でのコミュニケーションのとり方など緩和医療の具体的な技術についてお話ししたい。</p> |
| | <p>(4) わが国の保健医療の動向と医師に期待される役割 (担当教員: 山本)</p> <p>わが国の保健医療を取りまく環境の変化として、①疾病構造の変化、②少子高齢社会、③価値観の多様化、④経済の進展・低成長、⑤国際化の進展、⑥情報化の進展、⑦科学技術の進歩、⑧健康危機管理事例の多発について解説したうえで、医師と法律・行政との関わり、最近の保健医療政策の動向について解説する。また、厚生労働省医系技官の役割とその仕事の魅力について紹介したい。</p> |
| | <p>(5) 東洋医学総論 (担当教員: 西本)</p> <p>漢方医学は、紀元前4世紀頃に中国において編纂された「黄帝内経」という書物にその原型をみるが、その後、中国国内においては中国伝統医学として発展し、それを輸入した日本においては、15世紀頃から「漢方医学」として独自の体系化がなされてきた。その特色は生薬による治療と針灸治療であるが、昨今、西洋医学の発達の一方で、西洋医学では十分な対応ができない症状や疾患に対して、漢方治療が大きな効果を挙げることが認知されてきている。講義では、漢方医学の歴史・基礎を解説するとともに、臨床医学としての漢方が、西洋医学に対してどの分野でアドバンテージを持ちえるか、あるいは西洋医学をどのように補完しうるか、について紹介していきたい。</p> |
| | <p>(6) チーム医療 (担当教員: 藤原)</p> <p>平成22年に厚生労働省から「チーム医療の推進に関する検討会報告書」がだされ、医療現場では、チーム医療の推進に向け様々な取り組みがされています。チーム医療は、“複数の職種が対等な関係でそれぞれの立場を尊重しながら協働すること”と言われていますが、実際はそうでないことも多いです。また、チームの一員である患者・家族が置き去りにされているということも多々あります。</p> <p>講義を通して、①チーム医療とは、②チーム医療における多職種協働、③チームの一員としての患者・家族、について理解を深め、チーム医療について再考していきたいと思います。</p> |

| | |
|------------------------------------|--|
| <p>講義内容</p> | <p>(7) 医療・医学における倫理と法 (担当教員：丸山) (a)生命倫理の基本原則について触れたあと、臨床研究を行う際に遵守すべき法令・指針について解説する。(b)医療事故による法的責任の主要なものとして、①民事責任(損害賠償責任など)、②刑事責任、③行政上の制裁について、成立の要件と結果および最近の傾向を解説する。併せて、インフォームド・コンセントの要件や個人情報保護法制の概要にも触れる。</p> <p>(8) 憲法学から見た性同一性障害 (担当教員：井上) 最近、憲法改正が議論されています。その議論において、野党議員から総理大臣に対して「日本国憲法13条に何が規定されてるか」との質問があり、総理大臣は「個別の条文をいちいち存じ上げない」と回答しました。実は憲法13条は立憲主義の基本原則に関する規定になります。また、去年は、「LGBTは生産性がない」との女性議員の発言ならびにそれを擁護する週刊誌が物議を醸しました。そこで、憲法13条そして14条の具体的内容を理解してもらえるように、医学とも関連する性同一性障害の法的問題を取り上げて講義したいと思います。</p> |
| <p>授業における使用言語</p> | <p>日本語</p> |
| <p>今年度の工夫 (準備学習・復習、関連科目情報等を含む)</p> | <p>系統講義では取り上げられなかったテーマから、今日の日本の臨床医活動にとって特に重要なものを取り上げた。準備学習・復習、関連科目情報等については、授業中に別途指示する。</p> |
| <p>教科書・参考書等</p> | |
| <p>成績評価方法と基準</p> | <p>出欠を重視する。</p> |

場所：大講義室（6/6（木）A講義室） 授業科目名 全人医学

| 週 | 月 日 (曜) | 時 間 | 講 義 題 目 ・ 実 習 題 目 | 担当 |
|---|---------|-------------|---------------------------|----|
| 1 | 6月3日(月) | 11:20~12:20 | 鍼灸 | 高岡 |
| | | 13:20~14:20 | 薬害 | 春本 |
| 1 | 6月4日(火) | 10:10~11:10 | 終末期医療と緩和ケア(1) | 安保 |
| | | 11:20~12:20 | 終末期医療と緩和ケア(2) | 安保 |
| | | 13:20~14:20 | わが国の保健医療の動向と医師に期待される役割(1) | 山本 |
| | | 14:30~15:30 | わが国の保健医療の動向と医師に期待される役割(2) | 山本 |
| 1 | 6月5日(水) | 10:10~11:10 | 東洋医学総論(1) | 西本 |
| | | 11:20~12:20 | 東洋医学総論(2) | 西本 |
| | | 14:30~15:30 | チーム医療 | 藤原 |
| 1 | 6月6日(木) | 10:10~11:10 | 医療・医学研究における倫理と法(1) | 丸山 |
| | | 11:20~12:20 | 医療・医学研究における倫理と法(2) | 丸山 |
| | | 13:20~14:20 | 憲法学から見た性同一性障害(1) | 井上 |
| | | 14:30~15:30 | 憲法学から見た性同一性障害(2) | 井上 |

科目名：ユニオンレクチャー

| 区 分 | 内 容 | |
|--|--|----------------------------------|
| 学習指導教員 (コーディネーター) | 役 職 名 | 医学教育学分野・総合臨床教育センター 特命教授 河野 誠司 |
| | 連絡方法 | E-mail:sjkawano@med.kobe-u.ac.jp |
| | 備 考 | |
| 学習到達目標 | 疾病構造の変化から、多くの診療科が関わるケースが医療現場では増えてきている。複数の診療科が関わる症例を選択し、各々の診療科の専門医が病態の診断ならびに治療法に関して活発に討論し、最善の方法を選択していくまでの過程を学生も参加して学ぶことを目標とする。ぜひ、チーム医療と全人的医療の大切さを学んでいただきたい。 | |
| 講義の概要・形式 | 横断的な症例が選択されており、幅広くさらに高度な知識が要求される。学生にも討論に参加してもらおうので、テーマに対して積極的に予習をお願いする。 | |
| 講義内容/ 学生へのメッセージ | <p>【心臓血管外科学】 肺炎球菌感染症を背景とする髄膜炎は頻度が高く、重篤であるため、早期診断加療が必要である。講義では当院で実際に経験した症例を取り上げ、複数の診療科の視点から解説する。 ～メッセージ～ 内科的治療と外科的治療によって良好な経過を得た症例です。</p> | |
| | <p>【循環器内科学】 突然発症の脳梗塞で来院した67才女性。精査の過程で、僧帽弁位に疣腫の存在が明らかとなった。果たして、その原因は？入院後も全身への塞栓をくり返し、最終的に亡くなられた。緩和や病理の観点からも考察したい。 ～メッセージ～ 多科横断的な症例が選択されています。広く、かつ深い知識が必要とされる症例ですので、今回のテーマについて、積極的な予習をおねがいします。学生さんにはディスカッションに参加してもらおうつもりです。</p> | |
| | <p>【整形外科】 骨粗鬆症は骨折に繋がるので整形外科が主体となって診療することが多いですが、骨粗鬆症類縁疾患との鑑別診断、口腔ケア、リハビリテーションも重要です。複数診療科の連携による集学的アプローチについて解説します。 ～メッセージ～ 超高齢社会となった日本において、骨粗鬆症診療の重要性は増すばかりです。骨粗鬆症診療において留意すべきことを共に学びましょう。</p> | |
| | <p>【腎臓内科学】 サルコイドーシスは全身の様々な臓器に障害を起こす原因不明の疾患です。比較的稀な疾患ですが、多くの診療科で診る可能性があるためどんな病気か知っておくことは重要です。今回はサルコイドーシスにより腎臓と眼が障害された症例を用いて、その鑑別診断や治療について解説します。 ～メッセージ～ この講義で全身性疾患であるサルコイドーシスについての理解を深めてください。</p> | |
| <p>【眼科学】 甲状腺眼症はバセドウ病や橋本病に併発する眼の疾患ですが、甲状腺機能が正常であっても起こりうる疾患です。今回の講義では、いくつかの症例を提示しながら、診断、甲状腺機能に対する治療、眼症に対する治療について解説します。 ～メッセージ～ 甲状腺疾患は内分泌疾患として重要ですので、関連して眼症の診断および治療についても理解を深めましょう。</p> | | |

| | |
|-----------------------------------|--|
| <p>講義内容/ 学生へのメッセージ</p> | <p>【耳鼻咽喉科頭頸部外科学】 生体腎移植後の三次性副甲状腺機能亢進症は、高Ca血症のコントロールや移植腎に対する影響が問題となり腎移植患者の予後に関連する。今回三次性副甲状腺機能亢進症で手術を行った症例を通して、腎不全に伴う合併症について理解を深めてもらうとともに副甲状腺全摘の手術について学んでもらう。 ～メッセージ～ 高Ca血症が腎移植患者の予後に影響を与える三次性副甲状腺機能亢進症の診断と治療について学んで頂きたい。</p> <p>【脳神経外科学】 脳卒中の約3/4は脳梗塞で、脳梗塞の約1/3は心原性脳塞栓です。人口の高齢化に伴って心原性脳塞栓は増加傾向です。心原性脳塞栓の多くは心房細動を有しており、その心房細動の病態生理、診断・治療を知ることは脳卒中の治療を学ぶ上で重要です。同時に脳塞栓症の診断・薬物治療（急性期治療と2次予防治療）、血栓回収療法についても講義します。 ～メッセージ～ 高齢者によくみられる病態と治療を横断的に学んで欲しいと考えています。</p> <p>【肝胆膵外科学】 急性肝不全に対する治療は、消化器内科・集中治療部・肝胆膵外科が協力して行っています。実際の事例を通じてどのような治療を行っているのか学んで下さい。 ～メッセージ～ 急性肝不全に対する治療は、大学ならではの多科連携治療です。</p> <p>【免疫内科学】 皮膚筋炎/多発筋炎は新たな自己抗体の同定により病型が分類されるようになった。特徴的な筋所見、皮膚所見もふまえ解説する。 ～メッセージ～ 筋炎という病名のもとに様々な病態が混在しています。お楽しみに。</p> <p>【総合内科学】</p> |
| <p>履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</p> | <p>準備学習・復習、関連科目情報等については、授業中に別途指示する。</p> |
| <p>教科書・参考書等</p> | <p>各科のプリント</p> |
| <p>成績評価方法と基準</p> | <p>出席点</p> |

平成31年度6年次ユニオンレクチャー講義予定表
 講義室:大講義室・A講義室(6/6(木)・6/12(水))

| 回 | 月日(曜)/時間/担当 | 講義項目 | 関連講座 |
|----|----------------------|------------------------|------------------------------------|
| 1 | 6月3日(月) | 肺炎球菌性髄膜炎の1例 | 感染症内科 脳神経内科学 |
| | 15:40~17:10 | | |
| | 心臓血管外科学 中井 秀和 | | |
| 2 | 6月4日(火) | 全身性の多発塞栓を呈した、僧帽弁疣腫の1例 | 脳神経内科学 先端緩和医療学 病理診断学 |
| | 15:40~17:10 | | |
| | 循環器内科学 松本 賢亮 | | |
| 3 | 6月5日(水) | 骨粗鬆症診療における集学的アプローチ | 糖尿病・内分泌内科学 歯科口腔外科 リハビリテーション科 |
| | 15:40~17:10 | | |
| | 整形外科 新倉 隆宏 | | |
| 4 | 6月6日(木) | サルコイドーシスにおける腎および眼合併症 | 眼科学 |
| | 15:40~17:10 | | |
| | 腎臓内科学 渡邊 健太郎 | | |
| 5 | 6月7日(金) | 甲状腺眼症ー診断および治療ー | 糖尿病・内分泌内科学 放射線診断学 |
| | 15:40~17:10 | | |
| | 眼科学 長井 隆行 | | |
| 6 | 6月7日(金) | 三次性副甲状腺機能亢進症 | 腎臓内科学 |
| | 17:20~18:50 | | |
| | 耳鼻咽喉科頭頸部外科学 森田 成彦 | | |
| 7 | 6月10日(月) | 心房細動による脳梗塞と急性期脳血管再開通療法 | 循環器内科学 脳神経内科学 |
| | 15:40~17:10 | | |
| | 脳神経外科学 魚住 洋一 | | |
| 8 | 6月12日(水) | 急性肝不全に対する治療戦略 | 消化器内科学 麻酔科学 |
| | 15:40~17:10 | | |
| | 肝胆膵外科学 蔵満 薫 | | |
| 9 | 6月13日(木) | 炎症性筋疾患の分類と治療 | 脳神経内科学 皮膚科学 |
| | 15:40~17:10 | | |
| | 免疫内科学 森信 暁雄 | | |
| 10 | 6月14日(金) | | |
| | 15:40~17:10 | | |
| | 総合内科学 森 寛行 | | |

科目名：個別計画実習

| 区 分 | 内 容 | |
|----------------------------|---|---|
| 学習指導教員 (チューター) | 役 氏 職 名 | 臨床関係各教育研究分野教授・准教授(別表のとおり) |
| | 備 考 | ※学生個々のチューターは5年次に決定する。 ※チューターは、個々の学生が計画する実習内容を、大局的な観点から個別に相談・承認・確認し、その実習計画に関して責任を有する。 |
| 学習指導教員 (個別計画実習担当 教員) | 役 氏 職 名 | 臨床関係各教育研究分野実習担当教員 |
| | 備 考 | ※各分野の実習担当教員は、学生が実習計画を策定するにあたり、各実習期において自科(分野)の実習を希望する学生に対して、その具体的な実習内容・実習先に関する情報提供や相談を行う。また実習協力病院に対して実習受入依頼を行い、時期毎の実習受入可能人数等を調整する。神大病院における実習時は、実習を担当する教員の代表として学生に対応する。 |
| 学 習 目 標 | <p>本実習は、学生の自主性を重んじ、学生が主体的に考えた実習計画に沿った形で実施するものである。臨床実習のみならず研究室や海外での実習も対象とし、個々の学生に対して臨床関係の教授または准教授がチューターとなり、その実習計画の内容を吟味し指導を行う。</p> <p>臨床実習では、5年次に行ったBSL (Bed Side Learning : 大学病院の全臓器別診療科を回り幅広い臨床経験を積む実習)とは異なり、医療チームの一員として診療に積極的に参画するクリニカル・クラークシップにより深い知識や診察スキルを習得し、卒後研修につながる臨床実習を目標とする。</p> <p>海外の実習では、外国での臨床実習または研究を通じて、異文化交流を深め、国際的な視野の獲得に勤めることを目標とする。</p> <p>研究実習では、基礎研究に加えて臨床研究も対象とし、最先端の医学に触れ、サイエンスへの探究心を育むことを目標とする。</p> | |
| 実 習 の 形 式 | <p>実習期間を大きく次の3つの期間(実習期)に分ける。</p> <p>第Ⅰ期：平成31年4月 1日(月)～ 5月31日(金)</p> <p>第Ⅱ期：平成31年6月17日(月)～ 8月 2日(金)</p> <p>第Ⅲ期：平成31年9月 2日(月)～10月18日(金)</p> <p>原則として実習期ごとに異なる実習目的(実習分野)を掲げることとし、各期において設定した実習目的に基づき、個々のチューターと相談しながら実習計画を策定・実施する。各期において実習報告日を設け、実習状況を報告・確認するとともに、全実習終了時には実習内容に関する発表会を行う。</p> | |
| 臨床実習について | <p>実習協力病院に対して実習を依頼し、実習協定書を取り交わす。</p> <p>あわせて「臨床実習の手引き」を作成・送付する。</p> | |
| 成績評価方法 | <p>各チューターが、担当する学生の全期を通じた評価を行う。</p> <p>チューターは、各実習先における指導責任者の評価や、各期実習報告時の面談等における評価、自己評価及び発表会における評価等に基づき可否を判定する。</p> <p>発表会における優秀者は、卒業証書授与時に表彰する。</p> | |

【別表】 チューター教員一覧(H31)

| チューター教員名 | 教育研究分野名 |
|----------|---------------------|
| 平田 健一 | 循環器内科学 |
| 石田 達郎 | 循環器内科学 / 医学教育学 |
| 山下 智也 | 循環器内科学 |
| 児玉 裕三 | 消化器内科学 |
| 吉田 優 | 消化器内科学 |
| 西村 善博 | 呼吸器内科学 |
| 小林 和幸 | 呼吸器内科学 |
| 小川 涉 | 総合内科/糖尿病・内分泌内科学 |
| 坂口 一彦 | 総合内科/糖尿病・内分泌内科学 |
| 西 慎一 | 腎臓内科学 |
| 森信 暁雄 | 免疫内科学 |
| 関口 兼司 | 脳神経内科学 |
| 南 博信 | 腫瘍・血液内科学 |
| 大路 剛 | 感染治療学(感染症内科) |
| 佐々木 良平 | 放射線腫瘍学 |
| 野上 宗伸 | 放射線診断学 |
| 飯島 一誠 | 小児科学 |
| 西村 範行 | 小児科学 |
| 曾良 一郎 | 精神医学 |
| 菱本 明豊 | 精神医学 |
| 掛地 吉弘 | 食道胃腸外科学 |
| 福本 巧 | 肝胆膵外科学 |
| 木戸 正浩 | 肝胆膵外科学/低侵襲外科学 |
| 谷野 裕一 | 乳腺内分泌外科学 |
| 眞庭 謙昌 | 呼吸器外科学 |
| 田中 雄悟 | 呼吸器外科学(低侵襲外科学分野) |
| 尾藤 祐子 | 小児外科 |
| 黒田 良祐 | 整形外科 |
| 酒井 良忠 | 整形外科/リハビリテーション機能回復学 |
| 西田 康太郎 | 整形外科 |
| 中村 誠 | 眼科学 |
| 丹生 健一 | 耳鼻咽喉科頭頸部外科学 |
| 大月 直樹 | 耳鼻咽喉科頭頸部外科学 |
| 日向 信之 | 腎泌尿器科学/泌尿器先端医療開発学 |
| 出口 雅士 | 産科婦人科学/地域医療ネットワーク学 |
| 蝦名 康彦 | 産科婦人科学 |
| 寺師 浩人 | 形成外科学 |
| 溝渕 知司 | 麻酔科学 |
| 小谷 穰治 | 災害・救急医学 |
| 井上 茂亮 | 災害・救急医学 |
| 山田 勇 | 災害・救急医学 |
| 伊藤 智雄 | 病理診断学/病理部・病理診断科 |
| 岡山 雅信 | 地域医療教育学 |